

Ⅳ 研究の成果

本研究は、「特別支援教育における教育課程に関する総合的研究」という研究課題を設け、5年間で2つのサブテーマを取り扱った。平成28～29年度には「通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて」、平成30年度～令和2年度には「新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施に向けた現状と課題」というサブテーマを設けている。2つのサブテーマは、いずれもわが国のインクルーシブ教育システムが目指す、多様で柔軟な仕組みづくりの整備という方向性に沿った研究であった。本研究の成果をまとめるにあたっては、通常の学級及び通級による指導と関連する知見がそれぞれのサブテーマで連続的に扱われたことも踏まえ、連続性のある多様な学びの場として位置付く特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級、のそれぞれに整理して述べることにする。なお、これらの成果は、学会のポスター発表、学術誌への掲載、研究所セミナーでの報告、研究所 web での研究成果報告書、サマリー、リーフレットの発信といった形で普及を図っている。

1. 特別支援学校を対象とした研究の成果

特別支援学校を対象にした研究では、教育課程の編成状況を把握するとともに、カリキュラム・マネジメントをより一層推進し、社会に開かれた教育課程を目指していくための知見や今後の課題を考究することができた。

当該学年に準ずる教育課程においては、授業時数の配当の工夫の他に、学びの過程で考えられる困難さに対して障害特性に応じた手だてを適切に行うことや、自立活動の指導と教科指導の関連、学部間のバランスなどを検討しながら、確実に基礎的・基本的な力を培う教育課程の編成状況を把握することが課題である。

特別支援学校の知的障害の教育課程や自立活動を主とする教育課程においては、学習指導要領の各種規定を踏まえて、指導の形態を決める前に、学習指導要領に示された各教科等の目標および内容の指導に必要な授業時数を定めたり、人間として調和のとれた育成を目指し、資質・能力ベースで各教科等のバランスについて再確認したりする手続、指導の評価や年間指導計画等の改善・充実が課題として挙げられる。

自立活動の指導においては、指導すべき課題を明確にして、指導目標や指導内容を設定して個別の指導計画を作成するには、特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）に例示されている手続を参考にしながら、各学校で言葉の定義や具体的な手続を検討して、校内の教職員の共通理解を図りながらシステムの工夫・改善に取り組むことが課題である。

2. 特別支援学級を対象とした研究の成果

特別支援学級が編成する特別の教育課程では、自立活動を取り入れること、児童生徒の実態に応じた教育課程を編成することとされる。実態に応じた教育課程の編成の在り方としては、学習指導要領実施前の状況として、特性を踏まえた教育課程の編成状況や、既存

事項や習得状況を把握する過程の検討ができた。実態に応じて編成された教育課程を基にして実施される交流及び共同学習についても、当該学年に準ずる教育課程について、各教科等の実施状況に関する把握が進んだ。合わせて、交流及び共同学習のさらなる充実のために、自立活動の指導と、交流場面における個別の指導や支援が必要であることを、事例研究を通して整理することができた。

得られた成果は、ガイドブックとして整理した。ガイドブックは、特別の教育課程の編成にかかる部分については、特別支援学級担任の参考となるように、学習指導要領の改訂の要点を丁寧に解説している。加えて、交流及び共同学習の実施に当たっては、通常の学級の担任や各教科等の担当者、管理職の理解や協力も欠かせない。このことから、特別支援学級と通常の学級のそれぞれの指導が連続性をもって行われるために必要となる知見を加え、より多くの教職員の参考となる内容を盛り込んでいる。

3. 通級による指導及び通常の学級を対象とした研究の成果

平成 28～29 年度実施の研究からは、通常の学級と通級による学びの連続性に関する検討を踏まえ、「情報交換・情報共有の方策の検討」「授業を見合う体制づくりと工夫」「学校全体の取組として展開」「地域のリソースの活用と連携」「研修の工夫」「校長のリーダーシップと教育委員会のバックアップ」の 6 つの提言をまとめた。また、この研究知見から、通級による指導を通常の学級での学習や生活に生かす上で重要となる事項を抽出し、①通級による指導の理解と教育課程の編成等、②的確な実態把握、③個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用、④情報交換・情報共有の工夫、⑤授業参観等の活用、⑥通級による指導を通常の学級に生かす工夫、⑦保護者、関係機関との連携、⑧研修、⑨管理職のリーダーシップ、⑩教育委員会による体制整備、といった柱立てに基づき、手引き書の作成に至っている。

平成 30 年度実施の調査からは、通級による指導形態として、自校での指導が中心であることが整理された。今後の通級による指導の充実を目指し、他校での指導や巡回による指導に関する検討が進むことが期待される。併せて、通常の学級に実施した調査の結果からは、教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導に関する把握を進め、具体的な工夫に関する情報を整理することができた。